

「日本のイノベーション戦略」 ～多様性を受け入れ、新たな価値創造を目指そう～

1. 委員会設立の背景 (日本の現状に対する危機感)

- 設立の背景 : 世界を取り巻く環境の変化の中で様々な課題に直面しながらも、このまま何もせずに課題を放置していると日本は破綻し、衰退するという強い危機感。
- 委員会の目的 : 日本のイノベーション力を促進させる総合戦略を示すことで、魅力的で活力のある日本社会の復活を先導する。

現状と課題 (全てを巻き込む変化のうねり)

- (世界)
 - ・グローバル化の更なる進展
 - ・資源不足 (エネルギー、食糧、水) や環境問題
- (日本)
 - ・少子高齢化の加速
 - ・肥大化する財政赤字

日本の課題と危機感

- ・過去の成功体験が反面、今や変化を拒む均一的で閉鎖的な社会風土を醸成、
- ・破綻している国家財政など、目前の課題に対する危機意識の欠如
- ・世界でのプレゼンスが薄れ、アジアでも孤立化し、中長期的な外交戦略欠如
- ・希望が持てる将来ビジョンや夢の欠如や、格差の拡大と固定化などが、若者を中心に活力・意欲が減退気味

「岐路に立つ日本」

【前進】 “変化の兆し” 価値観の多様化と小泉改革の効果 vs 【後退】 “揺れ戻し” 先行きへの不安と景気回復で改革への意欲が薄れる

2. なぜイノベーションが必要なのか

1) イノベーションの果たす役割

イノベーションとは社会的持続的成長を牽引するエンジンである ⇒ 魅力的で活力ある、世界で尊敬される日本の復活を先導 (日本の労働力と資本は既に減少。よってイノベーションに期待)

2) 原理: (イノベーションの要件)

- ・現状に対する危機意識
- ・課題に挑戦する意欲と志
- ・将来に対する目的意識

(イノベーションのプロセス)

- ・既存の枠組みを取り払い
- ・異なる要素を交え、
- ・新しい価値を創造する

(イノベーションに求められる資質)

- ・多様性
- ・オープンマインド
- ・交流と連携
- ・グローバルな視点
- ・コミュニケーション能力

3. 日本とイノベーション

和魂洋才や伝統芸能の進展を支えた守・破・離の思想に体现されているように、日本の発展の背後には常にイノベーションがあった。

アジアの模範となった科学技術立国の日本の近代化や、省エネや環境技術など欧米先導する課題先進国としての実績は世界が認め、評価している。

- ・謙虚で観察眼に優れ、話を良く聞く
- ・世界有数のR&D予算と特許数
- ・異なる要素を融和する開発・創造力
- ・アイデアを具現化する技術力

「阻害要因」

- 成功が、変化や挑戦を拒む硬直化した社会構造を構築
- 均質的な社会が、内向きで閉鎖的な嫉妬深い風土を醸成

4. 日本のイノベーション力を復活させる社会づくり (戦略)

イノベーションを阻害する閉鎖性を打破し、均質性を崩すべく異質な要素を積極的に取込み、目標とする夢を共有することで日本人の意識を改革し、封じられてきたイノベーション力を解き放つ。

① 開かれた社会

柵を取り除き、平等に機会を与え、新しい挑戦を奨励し、失敗しても再挑戦できる環境を作る

② 多様性のある社会

均質性を打破する異なる要素を取込 総合的教育で多様性を育て、幅広い 選択肢を許容する社会作り

③ 夢のある社会

日本の良さを再発見し、日本が 目指す魅力ある国・社会のコン センサスを作る

【日本のイノベーション力を復活させるために目指すべき社会像】

① 開かれた社会

1) 垣根を取り払う

a. 解放する

- ・ 抵抗勢力と闘い、既得権益を排除する
- ・ 束縛しない雇用制度を通じて人材を流動化

b. 開放する

- ・ 規制緩和で市場を開放し、競争原理を導入
- ・ 政府、企業、NPOが担う大きな「公」に転換
- ・ 現場で変化を捉え、権限委譲で活性化させる
- ・ 視線を外に向け、世界を相手に勝負する

2) 挑戦を奨励する

a. 目標を共有し、意欲を高める

b. 挑戦を支援する制度を作る

c. 挑戦を奨励する風土を醸成する

d. 変革を先導できるリーダーシップを養成する

e. 失敗しても再挑戦できる環境を作る

3) 機会が平等にある

格差の固定化を防ぐため、挑戦する機会が平等にある社会

- ・ 人の採用や選抜におけるあらゆる差別（性別、学歴年齢、人種など）をなくす
- ・ 弱者を支援する仕組と風土を作る

② 多様性のある社会

1) 異なる要素を積極的に取込み、交流する

a. 多様な人材を活用： 女性、高齢者、外国人を取込み、幅広い交流と連携を通じて均質性を打破し、新しい価値を創造する。

b. 世界の人材が交わるHubとなる： 世界中の人材が自然と集まり、交流することで新たな価値を創造できる魅力的な場を提供

2) 幅広いライフスタイルを許容する

ライフ・ワークをバランスできる支援制度（育児など）や多様な就労の選択肢と機会を提供する。そして、与えられた機会や制度を躊躇せずに活用できる環境と、異なるライフスタイルを許容する社会風土を醸成する。

3) 多様性を育てる総合的な教育をする

a. 多様化する実社会で通用する教育

- ・ 教員の強化（社会経験は必須。指導のプロを育成）
- ・ 学校、地域社会、企業、家庭が連携した総合教育

b. 自分の考えを持ち、伝えられる人材を育成

- ・ 教えられた答えを覚えるのではなく、自ら考える教育
- ・ 国際社会で多様な人とコミュニケーションできる能力を磨く

③ 夢のある社会

1) 日本の良さや強みを活かす

a. 日本の強みと良さを再確認： 技術立国としてモノ作りや技術力という強みと共に、軸となる日本の理念や思想を再確認

b. 次世代に引き継ぐ： 理念や知恵の継承と共に、第2次大戦とその後の復興での経験を伝承する

c. 世界に貢献し、信頼される国民となる： 日本が学んだことを世界に提供し、共に進化する

2) 目指す将来像を話し合い、共有する

a. 目指すべき方向性： 持続的成長、人材大国、知的リーダーシップ

b. 検討事項： 成長と豊かさ、平等と格差、独自性と普遍性、モノと心

c. 魅力ある日本へのキーワード： “課題先進国”、“モノ作りと技術力”、“ソフトパワー”

d. リーダーを先頭に国民的コンセンサスを作る： 多様な年代や分野の人々を巻き込んだ意見交換

5. 残された課題への取組み（個別分野での具体的なアクション）

上記総合戦略をもとに、本委員会としては2006年度は、魅力的で活力のある日本の再生に向け、今後は他の委員会と連携し、更なる改革の推進、多様化の促進、そしてビジョンの提示への具体的なアクションを検証したい。

以上